東台戰記

一名松廼落葉

坤

リ 5
1966
2と

門り
號
冬

吉田藩文庫

松廼落葉巻下 一名東台戰記

前田夏繁
高畠藍泉 著

山東下寺通リノ三門ハ車坂門屏風坂門新門ヲ云市街平坦ノ地ニ接スルヲ以テ官兵ノ進撃スル果ニテ南門ノ偃門ヲ如ク激烈ナラニト山兵モ防禦コレヲ軽忽ニセズ山外慶雲寺御徒町ノ北山下ニ達スルノ地ニアリ日蓮宗池上ノ養玉院山下北坂本ニイタルノ地ノ二坊ニ未アリ天台宗東台ノ末分隊ヲ置キ本隊ノ下寺諸坊ニ備フルモノハ純忠隊精忠隊遊撃隊トス官兵ハ阿州薩州備州伊州新發田彦根トス南門攻撃ト時ヲ同シテ先分隊屯戍ノ二坊ニ向ヒ發砲進撃又山兵モ相應シ

テ出テ戦フ元来官兵東面ヨリ進ムモノ尤寡勢
ニシテ且激戦ナキハ山兵必険ヲ恃ンデ山ノ西
北ヲ空虚ニシ専東南ヲ以テ厳ニ防禦スベシト
察シ長州已下数隊ノ大兵西北ヲ急ニシテ東方
ヲ緩ニセリト南門ニ向フ所ノ諸隊モ概本道ヨ
リ進撃セズ（本道トハ筋違門ヨリ北御成道通ヲ云）是リノ敵ノ不意
ニ出ノ謀計ナリト云又兵法ニ敵ヲ攻ル必ズ一
ノ活路ヲ開ク是敵ノ心ヲシテ遁逃ノ道ヲオキ
決死ノ勇ヲ緩フスルノ策ナリト云慶雲寺ニア
ル所ノ山兵官兵ヲ向ヘ戦テ追ヒ走ラスルアト
一町余御徒町ニ至ル官兵カヘリ戦フ二三合

山兵分隊ノ長ヨヽニ殪レ餘衆潰散ス養玉院ニ
備フルモノモ出テ官兵ト相挑ム官兵寡少ヲ支ヘ
難クシテ支ル山兵勝ニ乗シ且戦ヒ且追テ坂本
ニ至ル官兵左右ノ市廛ヲ放火シテ遁走ス山兵
マヽニ死スルモノ三人ナリ南門ハ山兵百方守
禦シ山王臺マタヨク大砲ヲ激発シ拒守スルヲ
以テ輙破レズ官兵モ兵ヲ換ヘ鋭ヲマシ奮闘激
発死力ヲ盡セリ四方進撃ノ兵未カクノ如ク烈
戦スルナケレハ各隊ヲ領チ以テ應援ス伊州ノ
一隊筋違門ニ備フルモノコノ景況ヲ苦慮シ隊
長藤堂仁右衛門手勢若干ニ藤堂隼人ノ兵ヲ率

テ廣小路ニ斥候ス時ニ南門イマタ雌雄ヲ分ズ
仁右衛門遥ニ是ヲ望テ山兵ノ横面ヨリ狙撃ス
ベシト廣小路ヲ横キリテ山下ノ南邊ニ迫リ小
銃ヲ以テ山兵ヲ殪ス官兵ノ勇威百倍シ石垣ヲ
攀テ殆南門ヲ破ラントス（南門左右石垣ヲ築キ樹木ヲ多クウエ旧来ヨリ在リ）山兵ニ大谷内龍五郎ト云フモノアリ豁
達勇肝頗ル氣力アリ此景況ヲミテ聊猶豫セズ
獨衆兵ニ抽テ長劔ヲ揮テ縱横アヒ當リ進ミ出
テ山下伊州ノ隊ニ單身衝入シ數創ヲ蒙レトモ少
モ屈セス時ニ藤堂ノ家士野埼沢右衛門手ノ衆
卒ト、モニ大谷内ヲトリ圍ム又山王臺ヲ小竹

林坊以下勇僧二人林半蔵ト四斤砲ヲ運轉シテ
禦シタル力此舉動ヲ目擊シテ大谷内ヲ救ハン
ト砲門ヲ倒シ雷声一發群リタル伊州ノ隊ヲ狙
擊スルニ榴弾散乱シテ野埼ハ即死シ餘兵潰乱
ス大谷内ハマヽニ血路ヲ開テ山兵ト相合シ南
門ノ際ニ退去スアヒ替テ遊擊隊伍長新開義三
郎海埼虎五郎等防キ戦フ官兵ハ伊州ノ小隊潰
乱セリト雖モ薩州肥州因州ノ隊逞兵ヲカヘテ
逼擊シ小銃ヲ連發シテ陸續進擊ス山兵モ力戦
勇闘死ヲ決シテ防禦スト雖衆寡敵シ難ク酒井
宰輔ハ朝ヨリ数合ノ戦ニ氣力疲弊シテコヽニ

討死ス是ヨリサキ曽テ瑠璃殿前ニ安ズル所ノ
東照宮ノ神位ヲシテ兵燹ニ罹シテヲ恐レ精鋭
隊中ノ士ヲシテ是ヲ監護セシメ南門ヨリ出シ
テ酒井安房守邸ニ移サシム（酒井ノ邸碑川ニ在後田安ノ邸内ニ移シ又故ノ如ク東台ニ安ズ今府社ニ配セラルヽモノ是ナリ）神位ノ過ル所ロ
山兵ハ固ヨリ官兵モ猶砲ヲ伏テ路傍ニ拜ス其
撥乱反正二百有餘年至治ノ沢ヲ蒙ル神威ノ後
世ニ赫々タル見ルベシ（東照宮ヲ奉シテ遷座セシムルモノ枫山麓ノ府後ノ事ナリ）
（セノ番士児玉某トスト其車蹟載以後宦兵ノ逼迫イ
テ新聞書ニアル恐ハ非也）
ヨイヨ列シ乱弾近藤武雄ノ脇ヲ透ス武雄ハ
勇肝酒井トヒトシキモノ守禦百方コヽヲ堅テ
斃ル荒井鐐太郎ニ名ヲ肩ニカケ走テ山内ニ遁
ル大谷内龍五郎モ兩脱飛弾ノタメニ傷ラレテ
同ク山内ニ退ク自餘小卒（歩兵）モ或ハ死シ或ハ傷キ
守防漸ク全タカラスコレニ乗シテ一舉ニ山兵
ヲ鏖殺セント薩州柚テ南門ニ薄撃又肥後又ツ
ツイテ相進ム因州ハ新黒門外ノ嚣ヲ攀テ横面
ヨリ突入ス山兵猶支ルモノ一百バカリコノ兵
勢ニ敵シガタク衆コゾツテ潰乱シ中堂ノ側ニ
遁走スコレヨリ先榊原鍵吉撃剣法ニ長スルヲ以テ幕府ニ仕フモ（ト隊中ノ結盆ニアツカラズト雖モ）単身奮戦
ノ意法親王ヲ護スルガ為ニ惜カスト
衆敵ヲナヒカシ今天野八郎大久保紀伊守（幕府ノ大

熟察已下山兵凡百人余マ、ニ會シテ決死守禦
ノ令ヲ傳フ官兵北ルヲ追テ南門ヲ破リ大衆急
ニマ、ニ薄ル天野ハ榊原ヲシテ法親王ヲ護衛
シ山北ニ落ヘシト令シ大唱一聲敗卒ヲ鼓舞シ
死力ヲ揮テ防ガントス大久保紀伊守東照宮ノ
旗ヲサ、ゲ蒼然獨ス、ム餘兵モツ、イテ南ニ
向フ時ニ大砲ノ鉛丸飛来テ大久保ノ額ニ徹ス
紀伊守剛氣旗章ヲ持テ轉倒シ肉破レ腦碎レ死
未死セス衆士一人従テ後ニアリタスケテ以テ
法王ノ殿ニ入ラシム衆兵驚愕戦ハズシテ四方
ニ走ル天野以下モ其勢防グベカラザルヲ知リ

退テ法王ノ後殿ニ至ル四顧人影ヲ見スヨツテ
山北ノ別殿ヲ過キ（法王遁栖ノ地御隠殿ト唱フ）根岸村ヲ出テ
三河嶌村ニ赴ク道敗兵ノ一隊ニ會ス中ニ竹林
僧正アリ法王アリ法王ハ黒衣ヲ着草鞋ヲ穿チ
徐々僧正ニタスケヒカル天野已下流涕拜伏言
フ所ヲシラズ唯隠ニ其ノ先途ヲ問僧正會津ニ
赴キ法躰ヲヨセラルベキヨシヲ答衆涕ヲハラ
ツテ供奉センコトヲ請僧正ユルサズ皆コ、ヨ
リ退シノ夜ニ乘シテ戸田川ノ下流ヲコエ後数
日ニシテ會津ニ達シ給フト云サテ山ノ西面水
冨ノ両藩邸ヨリ激發スル所ノ巨礮ニヨリテ午

後一時吉祥閣上火ヲ發シ朱欄焔ヲ飛シ紅檐炎
ヲアゲ宮兵四方時ヲ同クシテ山内ニ入リ數坊
ヲ放火ス傷ヲカウフリテ坊内ニ退ク兵力窮テ
潛伏スルノ兵卒出テ諸所ニ戰死シ退テ火ニ投
シ或ハオシチガヘテ殪ル、モノモ又少カラズ
中ニ織田房之助ト云モノアリ世々幕府ノ臣タ
リ朝ヨリ戰テツヒニ退カズマ、ニ至テ血路ヲ
ヒラキ法親王殿ノ背後ナル大猷公ノ廟前ニ至
リテ屠腹スト海鬼虎五郎モ南門ノ破ル、ニ到
リ屠腹ス懷中ヨリ數創ヲ被リ退テ清水堂前ニ至
狂句ヲ書セリ光ルカ散乱スル所ノ片紙ニ徘徊ノ
下ニ其名ヲ録ス戰敗ト見ルマニ消ル花火カナ
山兵一時虚威ヲハルト雖ノチ人コレヲ得テ帰ル
ノ保ツレベカラサル

ヲ知ルノ意カ短コトヲ尽オヅベキ所ナリ
モ其終リヲトルハ士ノヨミスベキ所ナリ
官兵ノ大衆瑠璃殿前ニ會シ凱歌ヲアゲテ發砲
ス瑠璃殿輪藏常行堂法華堂鐘樓ミナタメニ兵
燹ニ罹ル其火通宵滅ゼズ焔炎天ヲ燔キ火光數
十里ノ外ニ見エ嗚呼旧時此莊嚴ヲ起セル土木
ノ費用幾萬ナルヲ知ラズ幕府主トシテ其財ヲ
出シ又諸侯ヲシテ其闕ヲ補ハシム眞ニソノ威
令ト金カトニツナガラ並ビ行ハル、ニアラザ
レバコ、ニ至ルコト能ハス盛衰時アツテ今古
ヒトシカラズト雖モ法燈コ、ニ滅シテ伽藍灰
ニ歸シ礎石轉伏シテ蓬蒿道ヲウヅムモシ山兵

ノ暴舉ナカリセバ唯今猶ソノ盛跡ヲミルベキヨヤ山兵散乱一隊東方ニ走ルモノ淺草ヲ歴テ大川橋ニ至ル（土俗東橋ト云フ）紀州ノ兵先タツテコヽニ備フ山兵急ニ小銃ヲ連發シテ其屯集ヲ衝キタヾチニ橋ヲ過テ木所ニ赴キ後上総下総ニ入レリ臥竜隊旭隊ハ根津谷中ノ戰破レシヨリ巣鴨ヲ歴板橋ヨリ青梅街道ヲ志シ田無ニ至リ脫兵ノ振武隊已下ト合シ飯能宿ノ能仁寺ニ據シハラク官兵ニ抗衡セリ彰義隊長池田大隅守以下白虎隊ハ山北ヨリ千住或ハ板橋ニ出會津ヲサシテ遁走シ奥州磐城平ニ兵ヲアゲテ安藤家ノ城郭ニ據リ後函館ノ役ニ屬スルモノアリ准隊長天野八郎ハ衆卒ト共ニ法王ヲ送テ三河嶋ヨリ巣鴨ノ間道ヲ微行シ晩暮目白ノ（小日向ノ西ニアリ）護國寺ニ投シ饉ヲ給シ酒ヲ取テ衆兵ヲ慰勞シ其行ク處各意ノ嚮フ所ニ任ス或ハ西奔シ或ハ東走シテ夜中皆散ス天野ハ府下ニ潛伏シテ猶為コトアラントス居ル丁五十余日七月中旬發顕シテ本所ノ石原（両国橋ノ北ニアリ）ニ捕縛セラル小川楊太石川善一郎其他各所ニ追捕セラルヽモノ數十人天野八郎（忠告ト云）單心剛強獄ニ有テ氣力屈セス斃休錄一卷ヲ記ス後ニ中秋無月ノ徘徊狂

句アリ云北ニノミ稲妻アリテ月クラシ北方ノ
電光ハ奥羽ノ戦ヲ云ナリ又山内佛頂院ハ浩氣
隊ノ本營ナリ隊長蒲生三郎ハ山面穴稲荷門外
ノ戦ニ討死シ残兵凡三十人坊内ニ潜伏シテ本
日諸隊ノ乱走トキリハス又官兵ノ搜索ニモレ
テ翌日マデ退ズ各其方嚮ヲ議ス論ツヒニ死ニ
決シ火ヲ坊内ニ放チ衆ニ十火ニ投ジテ死ス官
ソノ残兵潜伏ヲ嚴ニ探索セラレ則諸隊ニ令ヲ
下サル其文ニ云

昨十五日上野ニテ打洩シ候残賊掃除被仰
付候條指揮次第進撃可致候事

但今十六日四ツ時筋違門内ヘ相揃可致整
列候事

又諸隊ノ持場ヲ定メラレ巡邏探索ス　一

昨十五日上野ニテ打洩シ候賊掃除被仰付
候條各藩兼々ノ持場吟味致シ精々可致尽力
旨被仰出候事

但　講武所ヘ可相揃事
廣小路三橋辺
薩州　因州　肥後
本郷駒込根岸辺
備前　長州　佐土原　大村　肥前

道灌山谷中王子辺
藝州　伊州　筑後
浅草藏前辺
筑前　尾州

大方前日進撃ノ持口ヘ因テ其地ヲ定メラル戦後両三日山外所々ニ捕縛セラレ又殺傷セラルルモノアリ嘗テ山兵ノ列ナラザルモ其形状ノ怪ムベキハ多クコノ害ニ遇フト云官兵戦後其條ヲ以テ上陳又詳ナルモノ一二ヲ、ニ掲ク

當十五日上野屯集ノ彰義隊御追討被　仰出候處兼テ筋違御門并昌平橋和泉橋御警衛被仰付候ニ付前夜ヨリ筋違御門内青山邸ヘ出張御門々猶以厳衛指揮仕候翌十五日五時頃ヨリ戦爭相始四時過ヨリ益盛ニ相成諸藩頗苦戦之風聞有之甚苦心ニ堪兼候間　御總督ヘ伺濟ノ上私家士隊并藤堂隼人家来ヘ組士等相添為仕候差遣候處湯嶋臺ヨリ同所榊原式部太輔屋敷等ヘ巡邏仕候仕候内追々所々火炮熾ニ相起リ廣小路邊大小砲声烈敷相聞候ニ付同所ヘ向西側ヨリ戦爭ノ模様一見仕候由之處何分火焔砲烟ニテ見切モ付不申候ニ付銃丸飛来リ候中ヲ横切東側ヘ相移リ夫

ヨリ段々相進候由三橋内ニテ諸藩激戦家中
ニ付寡少ノ兵ナガラ不取敢因肥薩其外諸藩
一同上野山下ヨリ敵ノ横合ヲ厳敷砲撃戦争
仕候處ヘ私儀モ暫時御門御警衛ノ儀ハ隼人
ヘ任セ置巡邏ノ為使番家士召連同所ヘ馳付
候處右激戦之次第ニ付直様召連候家士モ差
加猶又其餘ノ口々ヘモ分配所々ヨリ砲撃為
致指揮仕候然ルニ諸藩之勇戦頗猛烈ニテ遂
ニ横合ヨリ土手ヘ駈上リ黒門前ヘ押出候ニ
付賊徒敗衂直様諸藩諸共一時ニ門内エ衝入
仕候處賊徒俄ニ大砲相發シ之ガ為ニ家士一
人討死仕候得共彌以無隙間致進撃賊徒遂ニ
敗走仕候乍然弊藩ノ儀ハ全ク斥候ノ為ニ差
出候兵隊故最早官軍御勝利ニ付進撃相止兵
隊相壘直様筋違御門陣所ヘ引揚申候此段御
届申上候

五月　　伊州藩惣師　藤堂仁右衛門

又一通

當十五日上野屯集之賊徒攻撃ニ付白砲二門
差出候様御沙汰ニ付則砲手相添差出候依之
水道橋ヨリ本郷通相進候處砲声頻ニ相聞戦
爭相始居候ニ付加州邸裏ヘ繰込是ヨリ發砲

仕候處賊ノ發火漸稀薄ニ相成候ニ付團子坂
上ヨリ根津ヘ相進候處潛伏之賊兵両脇ヨリ
發砲諸手困難ニ付右脇ニ於テ一所ノ便地相
撰發砲仕候ヲ敵陣炎焼賊兵相撥候間段々進
撃谷中天王寺辺ヘ進軍之處藤堂監物手勢罷
越候ニ付右ノ隊ヘ相加リ砲發所々放火遂ニ
賊兵離散仕候今朝六字過ヨリ戦爭相始ノ五
字過ニ終リ申候通計六十發餘仕候猶長藩薩
藩佐土原藩備前藩等之兵隊申合攻撃仕候得
共長州兵隊ニ於テ專申談相勤申候此段御届
申上候以上

伊州惣師

五月

藤堂仁右衛門

去ル十五日上野表出兵御達之趣奉敬承同日
曉天兵隊繰出桔梗下馬ヘ整列御手配之通全
隊二部ニ分チ一部大砲隊一部小銃隊大砲ハ
備頭薄田兵右衛門引卒仕護衛トシテ一番遊
奇隊指添一橋御門ヨリ水道橋ヘ繰出シ本郷
水府中邸ヘ繰込一部小銃隊ハ三五六番遊奇
隊并組銃隊指添隊長吉田藤兵衛引卒仕神田
橋ヨリ筋違橋ヲ出本郷通森川宿追分邊ヘ止
陣両隊共敵情伺候地形測量之上水府中邸之
兵者大砲隊二部ニ分チ半隊ハ令官三上留吉

引卒加州邸へ繰込山内ヲ攻撃ニ及時機ヲ以
テ暴多一挺相留メ臼砲ヲ以テ攻撃致シ喜連
川邸前通ヨリ駒込圍子坂へ進軍ニ及長伊尾
佐四藩ト併合攻撃仕候半隊ハ薄田兵右衛門
令官浦野幸之進等引卒仕根津黒門通へ進撃
長州大村藩ト併合接戦賊巣へ及砲發候所山
内モ大ニ動揺之趣ニ見聞仕候乍併地形惡敷
小川滿水大砲進退不便利ニ付加州邸へ轉陣
佐土原肥前藩ト諸共致攻撃其後御使番衆ノ
御指圖ヲ以圍子坂へ進軍ニ及ヒ尚又根津門
通へ侵入致シ候處賊兵敗走ノ趣ニ付大村藩

諸共根津社へ引揚休戦夫ヨリ加州邸門前へ
致轉陣候所惣軍御引揚之御指圖有之且又森
川宿へ罷向候小銃ノ一隊ハ途中本郷四丁目
加州邸近傍寺院へ賊兵潜伏ノ趣兼リ令官浅
野忠次郎五番半小隊ヲ引卒所々及探索候所
既ニ前夜退散致シ候由ニ付直喜連川邸前通
リヨリ各藩併合戦争相始メ一字間攻撃弾薬
手薄相成候ニ付及放火一時水府邸中へ繰ル
弾薬詰替猶又根津へ發向攻撃仕候森川宿へ
繰込候兵隊ハ一手三部ニ分チ一部番兵ニ残
シ置一部ハ雀部八郎令官夏井嘉吉等引卒根

津ニ向ヒ接戦一部ハ古田藤兵衛宮崎鎌吉等
引卒團子坂ニ向ヒ屢攻撃ニ及ヒ長藩ト併合
善光寺坂ニテ假砲臺ヲ攻取賊兵ヲ追拂、天王
寺門前迄ノ間一進一退此所官軍余程ノ苦戦
ニ候得共追々賊兵崩レ色付前路ヲ放火シ引
退候趣ニ付尚進撃長藩諸共致合隊寺院ヘ繰
込横合ヨリ及攻撃候得共此所地形甚悪敷賊
兵又々前後ヨリ挾撃進退殆相窮候折柄砲声
漸々相止遂ニ物別レニ相成申候然ル所佐土
原大砲隊尾州磅礴隊等相加リ賊兵致敗走候
ニ付所々及火置各藩兵隊團子坂ヘ引揚弊

藩後詰之兵隊諸共同所ニテ致休戦候所賊兵
再盛返シ同所ヲ攻撃ニ及其節三上留吉等重
創請候得共立地摶拂賊兵敗走仕候所ヘ御使
番衆ヨリ浅香町警衛ノ御指圖有之一隊繰上
候所尚又加州邸ヘ轉陣仕様御差圖ニ付轉陣
仕候内賊兵追々退散御軍監ヨリ惣軍引揚之
御指揮有之候ニ付全隊引纏夜ニ入桔梗下馬
ヘ引揚其後歸營仕候同朝水府中邸ヘ繰込候
兵隊之内直ニ太田万次加藤榮之進平井源八
郎等大砲護衛一番遊奇隊之者共少々召連為ニ
斥候根津辺ヘ赴キ敵情候伺ニ及候得共朝霧

溟濛彼我難辨攻撃ノ方略及ニ立談候所根津惣
門内ニ伏兵有之俄ニ挾撃太田万次平井源八
郎并遊奇隊ノ者共此所ニテ戦死仕候尤孤軍
勇進ニノ見難続不得止一旦水府中邸ヘ引揚
尚又根津辺ニテ戦爭仕候當日ノ戦捌手地方
ノ戦爭此手ヲ以テ手始ト奉存候當日弊藩ニ
テ接戦仕候場所ハ根津近辺ニテ御座候銃砲
ヲ以テ攻撃仕候場所ハ加州邸并池之端團子
坂善光寺坂辺ニテ御座候砲手金光繁次中西
壽之助等照準之功不少哉ト奉存候以上

五月

備前隊

官兵各隊上陳スル所大同小異アリト雖概ニテ
知ルベシ其戦死シ傷クモノ山兵ノ称フル所ヲ
トレバ官兵ノ死スル六百余人傷クモノ千人ニ
至ルベシト今各隊ヨリ上陳スルヲ以テコヽニ
録ス

戦死

野村正八
竹下猪之丞
川松喜蔵
岩下半之助

手負

伊知地惣吉
限元太一右衛門
唐釜島助
奥　新五左衛門
竹迫十次郎
有吉次左衛門
面高真之丞
榊　五郎兵衛
大山清右衛門
河野直之助
内山伊七郎

黒江勇右衛門
町田助之進
益満休之助
中村勇吉
池上勇次郎
鎌田幸之丞
相良笑之丞
床次吉之助
美代幸之丞
川北五郎左衛門
久永喜兵衛

吉田喜藏
松山覺之丞
海江田諸左衛門
貴嶋勇右衛門
木藤宗八
松方長作
新納清一郎
家村度助
山口喜右衛門
岩城彦四郎
藤田新左衛門

右者昨十五日戦死手負右之通御座候間此段
御届申上候以上

松元尚之丞
深柄彦五郎
津留八之進
肝付弥四郎
西田藤助
肝付十郎
夫方主頭
橋口良助
夫卒三人

五月十六日

戰死

薩摩藩
相良治部

河田佐久馬家来
杉山繁之助
同配下山国隊
田中五右衛門
佐分利鍈次郎隊
瀧　金市
佐々木仲之丞
田川廣之丞
勘定方附属

漆原甚左衛門
田村字三郎
高田藤次郎
池田摂津守家来
岡山力之助
森本清太
河田佐久馬附属
手負　白井貞之丞
山国隊
細木元太郎
那波九郎左衛門

深入仕候ニ付
不知生死

森脇一郎
前田庄司
使役士官
秋田嘉兵衛
佐分利鉄次郎隊
伊藤猪吉
星野辰之丞
有沢平之丞
池田相摸守人数
石川左現次
中川熊藏

以上戦死九人手負十三人
右之通御座候間此段御届申上候
河田佐久馬
前書之通相届候間此段御届申上候以上
五月
因州
和田壹岐
高山秋藏
八尾重助
玉箱持
清吉

右昨日戰爭之節手疵外小者ニ至迫死傷無御
座候以上
五月

千田四郎右衛門
高野庄藏
肥後隊中

右

戰死
手負

宮崎代助
中地藤太
高岸文八
夫卒一人
肥前侍從内

五月十六日

戰死

吉村謙助
佐藤左武郎
生瀨清見
久山壽太
池永小五郎
原　虎之助
藤井清六
内山久之進

手負

椋木直人
田中平九郎

右十五日戦爭出張人數戦死手負前書之通御
座候以上
五月

長州藩

永井虎藏
大庭佳藏
佐藤辰三郎

土田兵次郎隊
戦死
服部金三郎
土田清摩隊
手負
来原文司

右戦死手負ニ御座候以上
五月

筑後藩
有馬藏人

手負
半隊長
宮原俊一郎
兵士
伊達守之助
池田小市
根岸貞平

右之通御座候以上

五月

大村藩
渡邊清左衛門

半大隊司令官
太田万次

斥候役
平井源八郎

銃隊
伊藤儀右衛門
内藤惠三郎
尾関久五郎

大砲司令官
手負　三上留吉

銃隊
妹尾卯太郎
松田松三郎
片山言一
山本弥太郎

右者上野ニ於テ戦爭之節討死并手負之者共
御座候此段御届申上候以上
五月
備前侍従内
薄田清右衛門

上野ニテ戦爭之節戦死右之通御座候以上

五月

半隊司令官　能勢惣之進

佐土原藩

兵士

戦死　亀井卯吉

手負　島本亀右衛門

右十五日戦爭之節何レニテ討死仕候哉知レ不申色々探索仕候得共未相分不申候

右之通御座候以上

五月

紀藩隊長

和佐類之助

仁右衛門家士

野崎澤右衛門

杉田源兵衛支配

長井音次郎

千田源内組

森川治右衛門

小原次郎吉

鈴木正作

右三人之者戦爭中為仕候罷出候所其儘歸
營不仕候ニ付重々取調候所一人之者持參
ノ小銃并ケツ上野山内宿坊ニ御座候ニ
付何レ討死仕候儀ト八奉存候得共不分明
ニ御座候
右之通御座候
五月

伊州惣師
藤堂仁右衛門

戦後翌日大惣督府法親王ノ御在處探索ノ布告
ヲ出サル其文左ノ如シ
今度上野山内屯集之賊徒討伐之砌
輪王寺宮御立退ニ相成行衛更ニ不相分候ニ
付右御行衛相分リ候ハヾ早々可申出旨
御沙汰候事
五月

同十九日山兵討伐之節出兵ノ諸藩兵督府ノ御
覧アルベシトテ大下馬前ニ整列セシムツイデ
出兵ノ各隊ヘ感狀ヲ賜フ其文ニイハク
今般山内屯集之賊徒追討之節終日奮戦忽及
掃撃候條深感賞候尚成功之次第可遂
奏聞候愈抽誠忠勉勵可有之仍感狀如件
五月
大惣督

右各通同文自餘ノ諸隊ニ賜フ所モ畧相同ジナ
テ十六日早天ヨリ遠近ノ衆庶戦後ノ景況ヲ縱
覧セント山内ニ群集シ漫ニ諸坊ノ經巻ヲ取来
テ山兵ノ屍上ニ置キ仰デ歎ズルアリ俯シテ悲
ムアリ毀譽褒貶ノ論喧々トシテ止ズ又近傍ノ
市人兵燹ニ罹ルモノ山内諸坊ニ遺ストコロノ
米鹽ヲ得テ一時飢餓ヲ免ルアリ是ヲ官兵ノ給

薩州
隊長中
長州
隊長中

與ト誤聞シ貪饕無心ノ輩諸防ニ濫入シ佛器調
度ヲ得テ以テ私有トスルアリ其甚キニ至テハ
戸障子ヲトリ疊ヲ奪フ實ニ盗賊ニ異ナラズ巡
査ノ官兵モ制禦ノ道ニ苦ミ狀ヲ以テ建言シ濫
リニ山内諸坊ノ遺品ヲ持去ルヲ嚴禁スルノ布
告アリ嗚呼人慾ノ恐ルベキ昨日砲声ニ戰慄セ
シモ今日コノ貪掠ノ意ヲ起スモ亦是ヲシモ速
ニ制セズンバ暗ニ竊盗トナルノ端トナルベキ
ヲヤ山兵戰死スルモノヽ親子兄弟或ハ知己朋
友ハカラズ其遺骸ヲ認得ルアリト雖モミタリ
ニ之レヲ埋葬スルヲ得ズ只流涕ヲ飲デ去ルノ

ミ況ヤ遠邑役ニツクノ歩兵列藩隊ニ加ハルノ
士ニ於テヲヤ遺屍累々積日殮又雨鮮血ヲ洗ヒ
風死躰ヲ拂フ魂迷ヒ魄飛ニテ歸スル所ヲ知ラ
ズ時ニ増上寺ヨリ歎訴スルコトアリ其文云
去十五日於東叡山御誅伐ニ相成候脱走ノ人
人死骸未其侭有之趣傳兼仕候右ハ深キ御趣
意可被為在御儀ト奉恐察候得共當山ハ德川
家菩提所之儀ニ候得者最寄寺院之内ヘ假埋
被遣度奉存候何卒廣大之御仁慈ヲ以當山ヘ
被下置候様奉懇願候以上
五月十九日　増上寺

役者

同時坂本ナル僧徒モ又此事ヲ歎訴又其趣意大
略相同シ官其歎訴ヲ容レ以テ埋葬ノコトヲ委
任セシメラル則寺僧人ヲ頒テ山内ノ遺骸ヲ収
メ山王臺ノ北清水堂ノ背ニ假葬シ後自坊ノ閑
地ニウツシ葬ル一時假葬スルノ地ニ一基ノ卒
塔婆ヲタツ為ニ香ヲ點シ華ヲ供スル者朝ヨリ
夕ニ徹スル迫陸續トシテタエズ又山兵ノ脱落
スルモノ十六日ノ早天山北王子村ヲヨギル時
ニ官兵ノ巡邏ニ會シ忽相挑戦又山兵六人コヽ
ニ死シ余ハ散乱シテ行所ヲ知ラズ土人後ニ其

六人ノ屍ヲ取テ之ヲ田圃ノ中ニ埋葬シ六地藏ト号シテ祀ル遠近ノ土俗爰ニ賽シテ香華ヲトルヿ今ニ於テ虚日ナシ以後年々戦爭ノ日ニ當ル毎ニ往事ヲ追悼スルノ徒コノ二處ニ香華ヲ取ラザルハナシ本日山外ノ市街兵燹ニカヽリテ産ヲ失スルモ少カラズト雖モ敢テ愁怨ノ言ヲ出サズ一週三回毎戸僧ヲ招シ經ヲ讀シメ為ニ法筵ヲ開クコト恰モ親族中死スルモノアルガ如シ嗚呼山兵ノ市人衆庶ニ追慕セラル、唯君家ノ轉覆ヲ憂ルニヨルカ然レドモ官兵ニ抗衡シテ朝命ヲ恐レス去就道ヲ失テ此暴動ニ死ス義ヲ唱ヘテ不義ニ陷リ忠ヲ抱テ不忠ニ終ルモトヨリ公論ノ取ル處ニアラスト雖モ相総常野ノ逆徒奥羽函館ノ脱兵モ降伏謝罪シテ生還スルノ輩ハ其才能ノ厚薄ニヨリテ或ハ顯職ニ抜擢セラレ或ハ要路ニ登庸スモシ死者ヲシテ蘇生セシメ悔悟伏罪寛大宥恕ノ聖恩ニ浴スルヲ得セシメバ又事務ニ用アル者モ無クンバ有ルベカラズ然ルヲ只枯骨ノミ長ク朝敵ノ臭名ヲ負テ愀然地下ニ朽ツ實ニ歎スベク憫ムヘキノ極ナリ一朝モシ其方向ヲ失スレバ今日モ猶カクノ如クナラン夫恐懼セザルベケンヤ夫レ

謹慎セザルベケンヤ

松廼落葉巻下了